

2017年度

《学生による授業評価アンケート》結果報告書

相愛大学 FD 委員会

まえがき

2017 年度前期および後期の授業評価アンケートの結果を、ご報告いたします。先生方には、講義時間内でのアンケート調査の実施、アンケート結果に対する意見および改善方法などを記したリフレクション・ペーパーを作成いただき、ありがとうございます。

本アンケートは 2015 年度前期から同じ質問項目で行っており、授業に対する学生の評価を年ごとに比較することが可能です。

本年度は原則として全教員を対象に、授業評価アンケートを実施しました。また、前期と後期の結果をまとめて 1 冊の報告書としております。

1 冊の報告書にしたことで、前期と後期の比較が容易にできるようになっております。本報告書を学年の変わり目である前期と半年の学びを経た後期の比較、学生の学びに対する姿勢や専門課程への興味の変化などを評価する資料として活用して頂ければと考えております。本学の活発な FD 活動のためにも教員個人だけでなく、各学科・学部でも種々のデータを詳細に検討して頂きますよう、お願いいたします。

本結果報告書でも、例年通り FD 委員会において学科別などの集計や分析を行いました。大学のカリキュラムポリシー(教育課程編成・実施の方針)の再考や具体化、学びの質保証(ディプロマポリシーの具現化)が求められるなか、各学科、学部の教育課程、教育や学びの方針の検討の資料としても、本データを活用して頂けるのではないかと思います。そのためにも、教職員の皆さまには、より一層のご指導、ご協力をお願いいたします。

2018 年 3 月 25 日
相愛大学 FD 委員会
庄條愛子
中村圭爾
進藤容子
江草浩幸
橋田光代
井上 陽
藤永慎一
吉田信幸
染川章文
谷川由紀
木村諭史

授業評価アンケート結果の分析（基礎・共通および資格関係）

1. 質問 1～14 における評価の特徴

昨年度および今年度前後期の各質問項目に対する平均評価値を科目群別に図 1 と図 2 に示す。

【基礎・共通科目】 項目間の相対的な評価の高低に関しては、前後期とも昨年度やそれ以前と比べて、傾向（質問 3 の評価が極端に低く、質問 5～10 の評価が比較的高い）に変化が見られない。また、平均評定値の経年変化も統計的に有意とは思えない。これらの傾向の解釈や対策については、すでに何度も論じたので繰り返さない。

平均評価値の時期的変動に一貫性が見られないのも、これまでと同様である。たとえば、昨年度は全ての項目で後期の値の方が低くなったが、今年度はそのような傾向が見られない。ただし、昨年度以前は各教員が前後期ともアンケートを実施したが、今年度はどちらか一方の時期にしか実施していないので、前期と後期の結果を比較する、あるいは昨年度以前の結果と比較するのは慎重でなければならない。

【資格関係科目】 基本的傾向は基礎・共通科目と同じである。ただ、後期の質問 3（授業時間外学習）に対する評価が前期に比べて極端に低く、前後期の全グループの中でも最も低くなっているのが気にかかる。授業時間外学習を要求しない科目が後期に集中した可能性が考えられる。

2. 受講者数と授業に対する満足度（質問 14）との関連性

2011、2012、2013 年度に講義科目に関して受講者数と満足度の関連性を調べたところ、いずれの年度でも受講者数が多いほど満足度が低いという結果（負の相関）が得られた。その傾向が現在も続いているかを確認するため、前後期を合わせた 22 の講義科目に関して受講者数と満足度の相関係数を計算したところ 0.13（統計的に有意ではない）となった。すなわち、過去の結果と異なり、受講者数は満足度に関わらないということになる。この変化の原因はよくわからないが、多人数の授業における担当者の工夫が功を奏しているのかもしれない。

3. 「身についた力」の特徴

「身についた力」について、科目を講義系、演習・実技系（外国語、情報処理演習、スポーツ）、資格系（教職、司書）に分けて、全選択数に対する各選択肢の選択数の比率を図 3-1 に示す。ただし、後期は該当科目が少なかったため、前期の結果のみを載せる。また、科目群別に、昨年度と今年度前期のアンケートにおける選択率の変化を図 3-2、3-3、3-4 に示す。

科目群間の差異に経年変化は見られない。すなわち、過去のアンケート同様、次のような傾向が見られる。（1）講義系と資格系では、選択肢②（考える力）の選択

率が特に高い、（２）演習・実技系では、選択肢⑤（プレゼンテーション力）を除いて、選択肢間に選択率の大きな差はない、（３）講義系や資格系における選択肢①（問題・課題を見つける力）と選択肢②の選択率は演習・実技系より明らかに高い、（４）演習・実技系における⑥（コミュニケーション力）の選択率が他の２領域より明らかに高い、（５）選択肢⑤の選択率がどの領域でも目立って低い。

また、数値の多少の変動はあっても、各科目群における選択傾向は年度を超えて一貫していると言える。これらの結果の解釈や問題点についても、過去に指摘したので省略する。

４．自由記述の特徴

前期と後期で特に違いが見られないので、傾向をまとめて述べる。昨年度は演習・実技系科目で肯定的なコメント（「わかりやすかった」、「楽しかった」など）が目立ったが、今年度は講義科目に関してもそのようなコメントが多く見られた。一方、昨年度は「講義や板書のスピードが速すぎる」という内容のコメントが多かったが、今年度はほとんど見られなかった。また、今年度は講師の態度に関して「応対が丁寧」、「親切」、「優しい」などの好意的な評価が目についた。質問項目に対する平均評定値からはうかがえないが、自由記述からは各教員による授業改善の努力が感じられる。

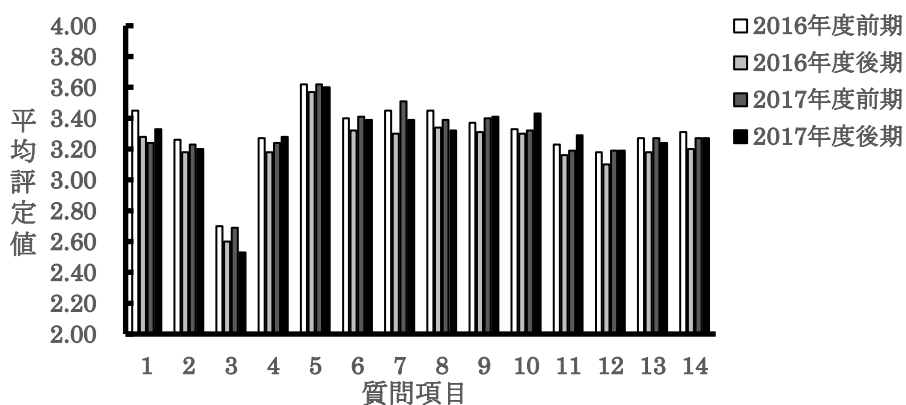


図１ 基礎・共通科目

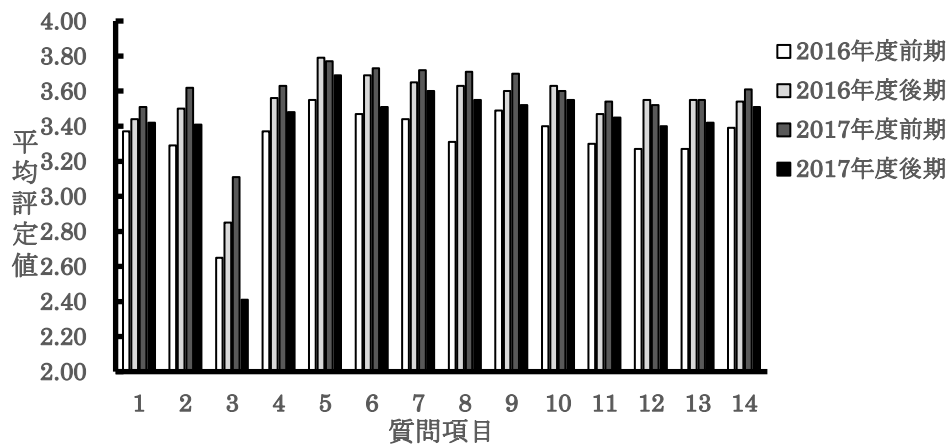


図2 資格科目

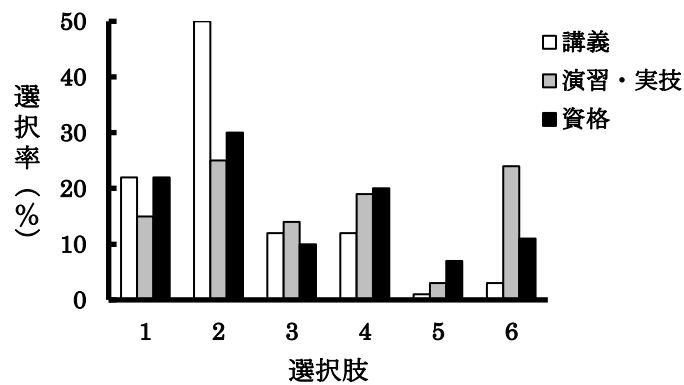


図3-1 身について力 (前期)

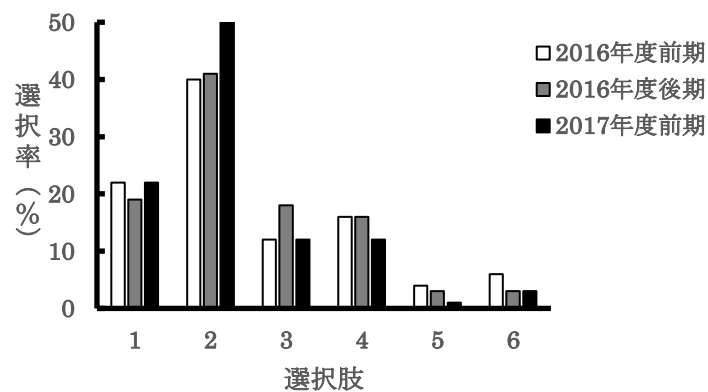


図3-2 講義系

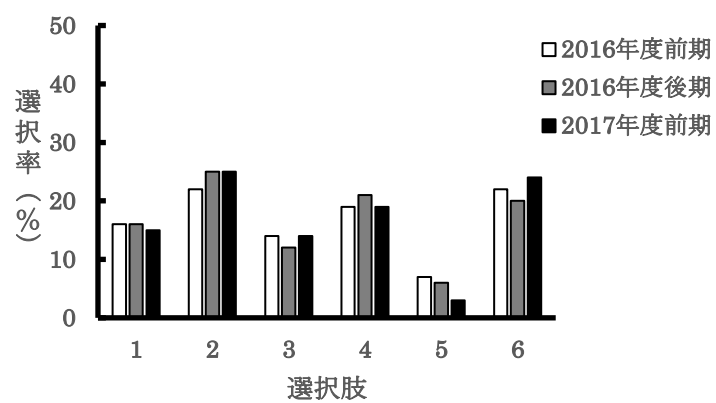


図 3 - 3 演習・実技系

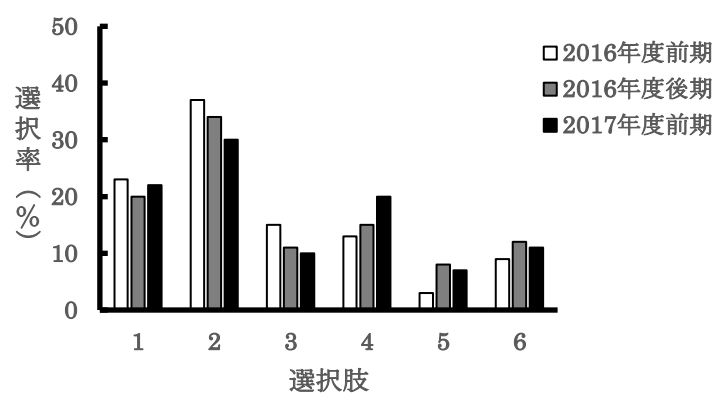


図 3 - 4 資格系

(文責 江草 浩幸)

授業評価アンケート結果の分析（音楽学部）

1. 講義系科目の評価の特徴(表 1)

音楽学部前期においては、音楽学科、音楽マネジメント学科いずれにおいても、問3を除けば平均 3.20 点を超える高い評価となった。設問間のバランスについても概ね全学全体の特徴と同等である。後期については、音楽学科は問3のみ、音楽マネジメント学科では問1、3、13を除いて 3.5 以上の高い評価となった。

前 期	音 楽 学 科	音 楽 マ ネ ジ メ ン ト 学 科	後 期	音 楽 学 科	音 楽 マ ネ ジ メ ン ト 学 科
問1	3.43	3.20	問1	3.52	3.41
問2	3.38	3.21	問2	3.83	3.67
問3	2.73	2.71	問3	3.38	2.81
問4	3.46	3.29	問4	3.97	3.65
問5	3.71	3.69	問5	3.97	4.00
問6	3.66	3.38	問6	3.95	3.89
問7	3.60	3.44	問7	3.92	3.85
問8	3.54	3.20	問8	3.83	3.74
問9	3.68	3.65	問9	3.71	3.81
問10	3.59	3.41	問10	3.80	3.67
問11	3.44	3.26	問11	3.87	3.59
問12	3.43	3.32	問12	3.95	3.59
問13	3.47	3.37	問13	3.90	3.48
問14	3.54	3.33	問14	3.95	3.70
平均値	3.47	3.32	平均値	3.82	3.63

表 1 音楽学部グループ平均（左：前期、右：後期）

音楽学科、音楽マネジメント学科双方において評価点が 2 点台となった問3は、予習・復習を含めて授業時間外も学習したかどうかを問うものであるが、これについては、他の設問より評価が低くなるという点では全学的な傾向とも一致する。

音楽マネジメント学科における問1と問13については、他の設問と比較して評価が低かったとはいえ 3.20 点以上であり、特別低い数字であるとは認められない。

2. 実技・レッスン系科目の評価の特徴

レッスン・実技系科目について表2に示す。音楽マネジメント学科については、前期の「ソルフェー

ジュ A」「サウンド・リインフォースメント」のみが対象となったが、同学科においてこれらは演習系科目と同等であるため、以下、音楽学科について述べる。

前 期	音 楽 学 科	音 楽 マ ネ ジ メ ン ト 学 科	後 期	音 楽 学 科
問 1	3.44	3.38	問 1	3.35
問 2	3.13	3.50	問 2	3.15
問 3	3.76	3.67	問 3	3.60
問 4	3.62	3.83	問 4	3.72
問 5	3.00	3.50	問 5	3.30
問 6	3.54	3.67	問 6	3.57
問 7	3.53	3.79	問 7	3.52
平均値	3.43	3.62	平均値	3.46

表 2 音楽学部レッスン・実技グループ平均（左：前期、右：後期）

前期・後期いずれも基本的には 3 点台を越えており、目立って低い評価は見られなかった。その中でも比較的低いものとして、問 2「授業(レッスン等)の準備(譜読み・練習等)を十分にしましたか」と前期の問 5「授業(レッスン等)で教員に質問や疑問をよく尋ねましたか」が挙げられる。問 2については、講義系科目の問 3と同様、自身の事前準備に関するものである。講義科目（2.7 点台）に比べれば取り組んでいる様子は見られるものの、学生の自己評価として「準備不足である」感覚が高いのではないかと予想される。

問 5については、前年度、前々年度では 3 点台を割っていたとの報告がある。その流れを考慮すると、今回なんとか 3 点台には届いたものの、横這いであるとみなすのが適切であると思われる。前期と後期の比較では、後期に入って 3.3 となり、一見上昇したようにも見られるが、前期と後期で評価対象となった科目群は、前期は和声法やソルフェージュ、歌唱関係の演習的な授業が中心であり、後期は副科声楽、副科ピアノ、専攻実技などの個人・グループレッスンが大半である。つまり前期と後期では科目としての性質が異なっているため、両者を時系列的に比較することはあまり意味がない。

3. 講義系科目・質問 15 の特徴

講義系科目においては、質問 15 として「この授業で身についたと思われる力」が何かが問われた。図 1～3 に、学科別・学部全体の結果を示す。

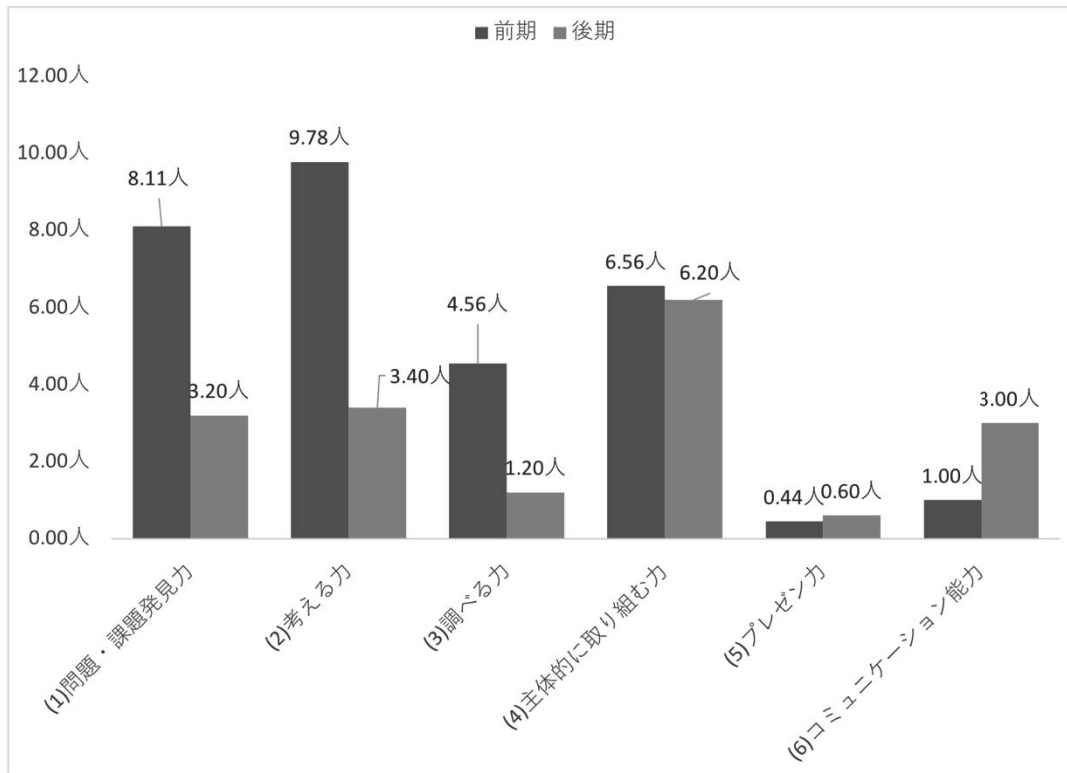


図1 質問15：授業で身についた力（音楽学科）

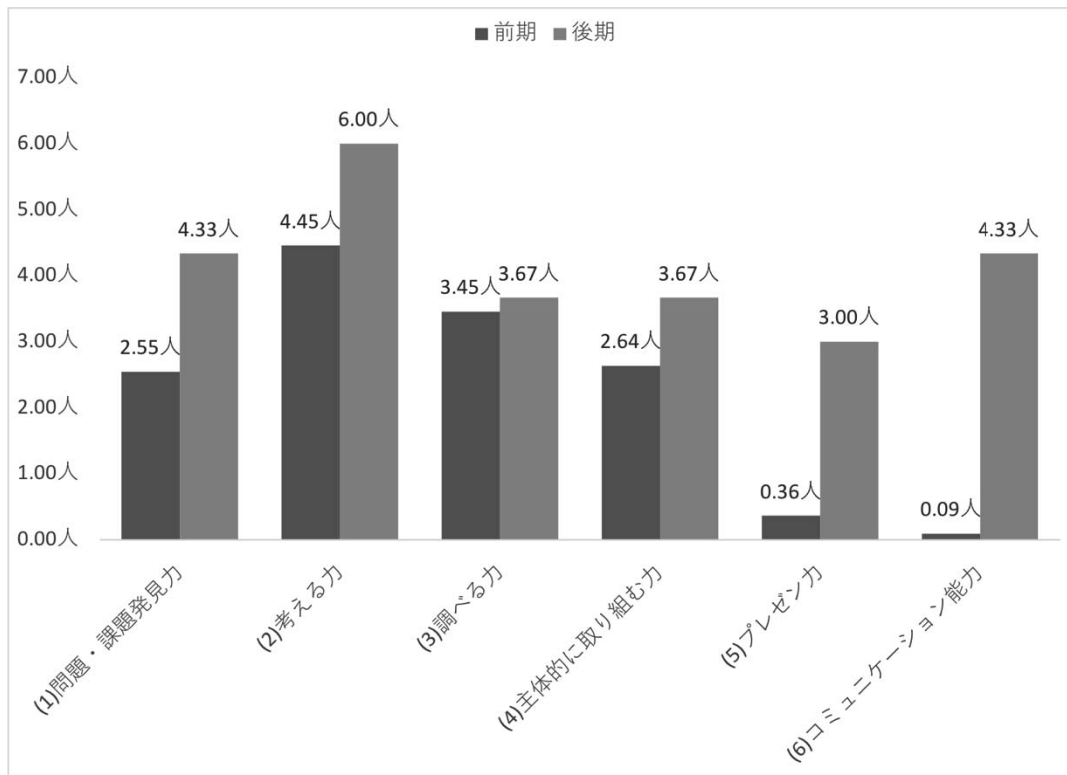


図2 質問15：授業で身についた力（音楽マネジメント学科）

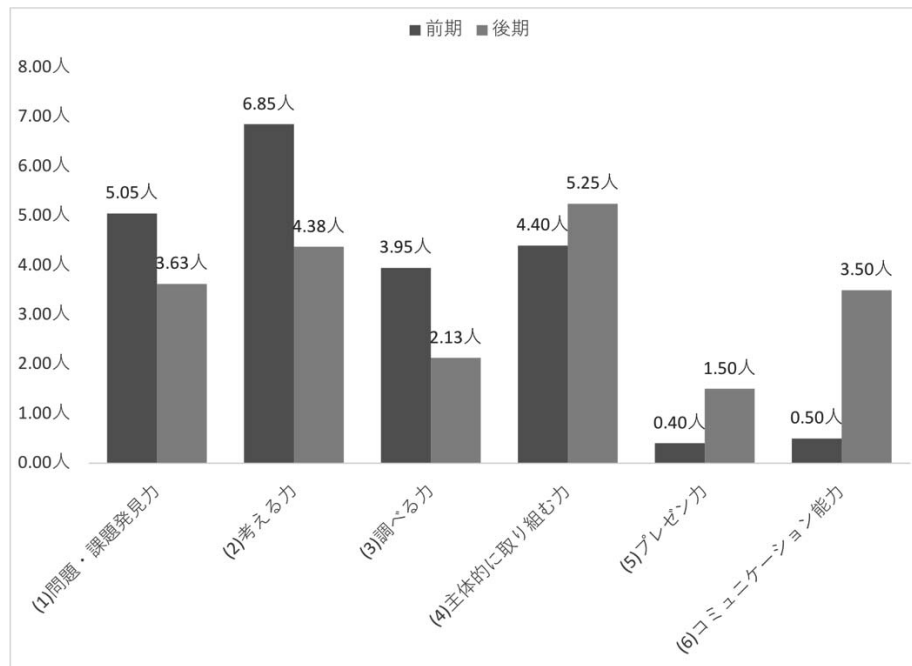


図3 質問15：授業で身についた力（音楽学部）

音楽学科（図1）について、目立って多かったのは(1)問題・課題発見力と(2)考える力である。楽曲分析、歴史、音楽学に関する科目が中心であることから、授業を通じて知識を蓄えることに関しての集中的な取り組みが多かったことが示唆される。これらの科目の性質上、学生による発表の機会は少ないと見られる子とから、特に(5)プレゼン力については該当者はほぼいなかったと思われる。後期になると歌曲研究やアンサンブル演習などが対象であることから、主体性を問われる実習を通じての学生・教員間のコミュニケーションの機会が増えたと思われる。

音楽マネジメント学科（図2）については、前期は文化論、メディア論、芸術環境論、プログラミングなど、座学と演習が中心であり、(1)～(4)にチェックをつける者が多い傾向が見られた。後期は科目名からして「コミュニケーション」に関する科目、ゼミ形式の科目がほとんどであることから、全ての項目において鍛えられたと思われる。

学部全体（図3）としては、両学科共に前半が座学系により(1)～(4)に票が集まり、後半は実践・実習を伴う科目であることから(4)や(6)の票数が伸びる傾向が示された。

4. 自由記述の特徴

自由記述欄はほとんどすべて音楽学科の科目にのみ回答が見られた。「楽しかった」、「わかりやすかった」「もっと知りたい」といった前向きな感想が中心である。特に目立った批判・改善の要望は見られないが、一部のレッスンについて、時間配分にもう少し配慮を求める声（もっと長くしてほしい、あるいは開始・終了を守ってほしい）のあることが見受けられた。学生個人の進捗状況にも依るであろうことから、時間配分は通常授業以上に難しいところであると思われるが、継続的に各講師の試行が必要であろうことが予想される。

（文責 橋田光代）

2017 年度授業評価アンケート結果の分析（人文学部）

1. 評価の特徴

人文学部人文学科は近年、留学生の割合が高くなり、授業によっては受講生の半数、もしくは過半数を留学生が占める場合がある。留学生の日本語能力については、それぞれの出身国、あるいは日本ですでに日本語を修得している学生が多く、概ね問題はないと考えられるが、日常会話は出来ても、学問領域・専門領域の用語、学問性・専門性のある高度なロジックを理解できず、授業についていくことの難しい留学生がいるのも事実である。しかしながら、これらは留学生だけの問題ではなく、留学生以外の学生にも共通することであり、このような学科の特徴を鑑み、授業評価アンケートの調査結果は

	人文学科	人文学科留学生	人文学科留学生以外
問 1	3.37	3.47	3.32
問 2	3.38	3.45	3.34
問 3	2.88	3.03	2.81
問 4	3.44	3.53	3.39
問 5	3.61	3.73	3.55
問 6	3.49	3.58	3.45
問 7	3.54	3.66	3.49
問 8	3.45	3.61	3.37
問 9	3.55	3.67	3.49
問 1 0	3.51	3.63	3.45
問 1 1	3.42	3.46	3.39
問 1 2	3.35	3.46	3.29
問 1 3	3.34	3.42	3.30
問 1 4	3.41	3.51	3.36
平均値	3.41	3.52	3.36

表 1 前期グループ平均（人文）

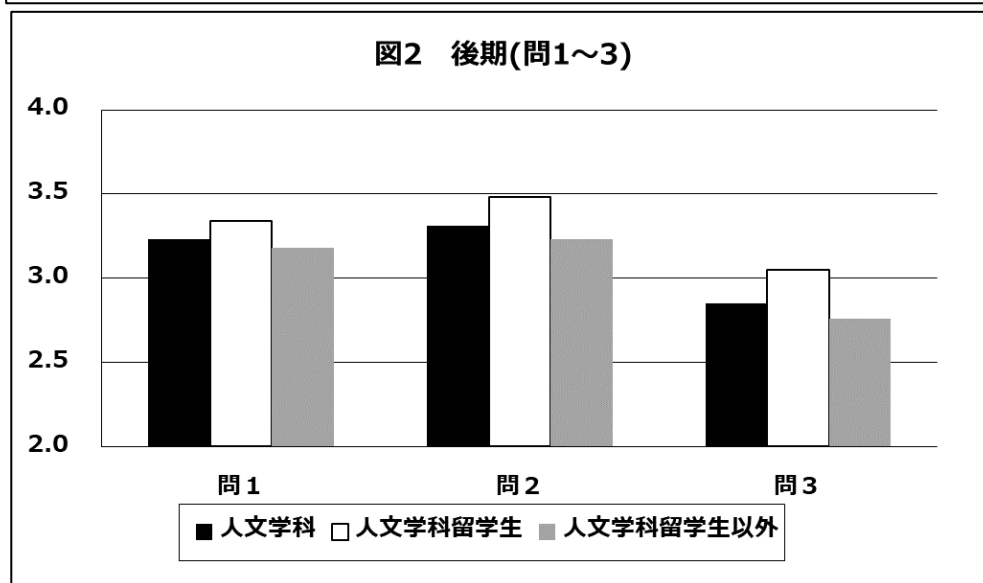
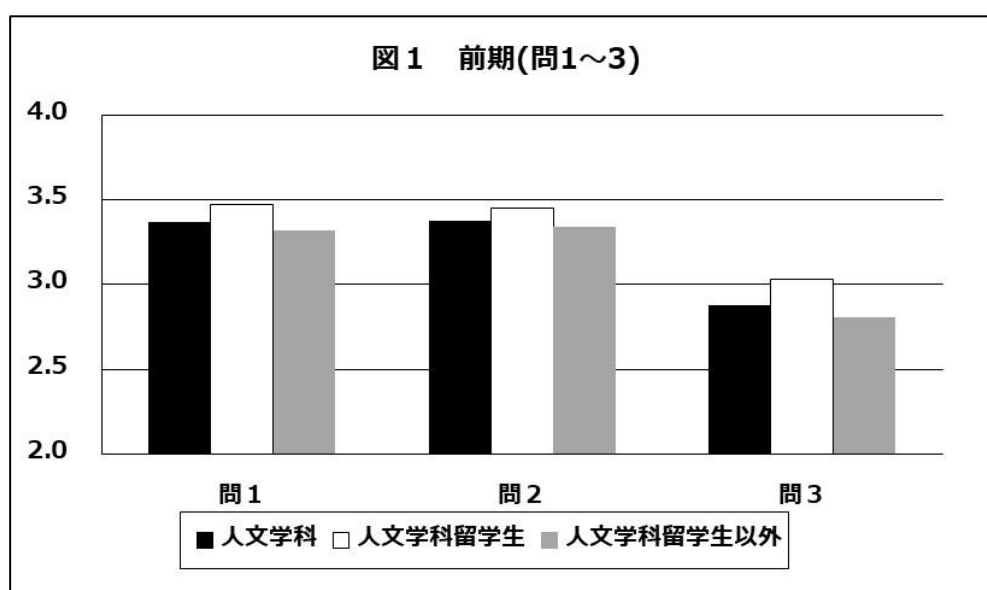
	人文学科	人文学科留学生	人文学科留学生以外
問 1	3.23	3.34	3.18
問 2	3.31	3.48	3.23
問 3	2.85	3.05	2.76
問 4	3.40	3.52	3.34
問 5	3.55	3.68	3.49
問 6	3.47	3.67	3.37
問 7	3.55	3.71	3.48
問 8	3.42	3.57	3.35
問 9	3.53	3.67	3.46
問 1 0	3.48	3.67	3.40
問 1 1	3.38	3.52	3.32
問 1 2	3.34	3.55	3.25
問 1 3	3.38	3.59	3.29
問 1 4	3.43	3.63	3.33
平均値	3.38	3.55	3.30

表 2 後期グループ平均（人文）

人文学科の評定値を、留学生と留学生以外の調査結果も挙げて、前期と後期の調査結果を比較しつつ検討する。

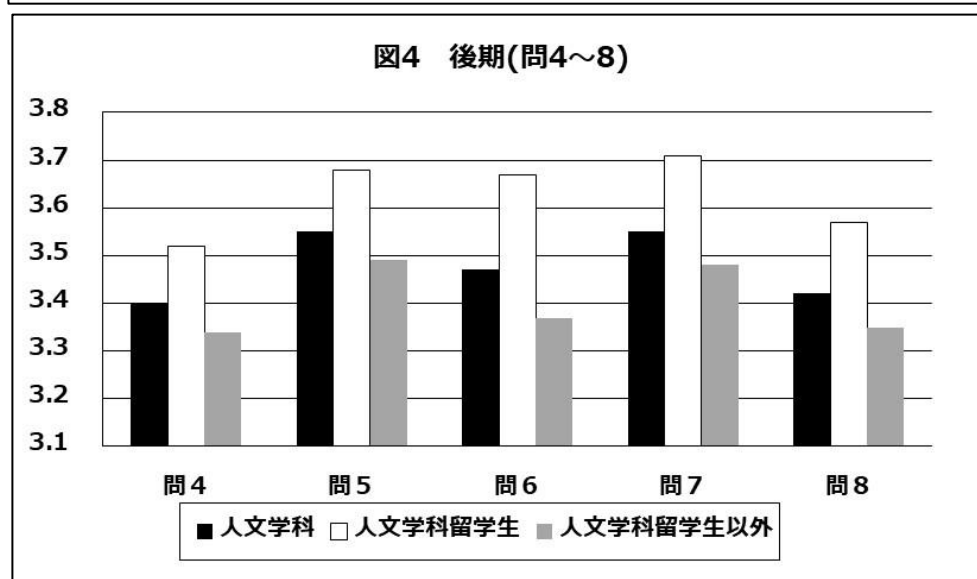
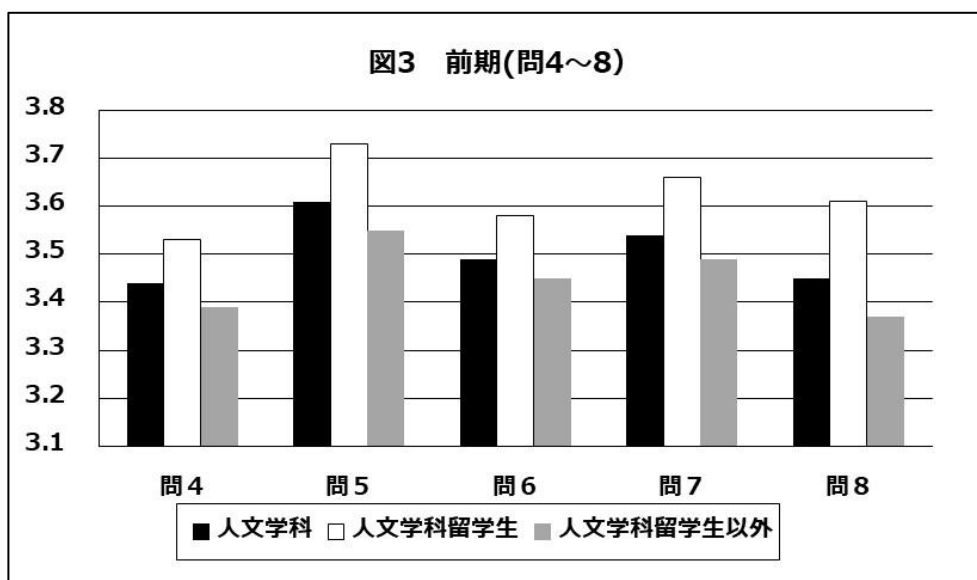
まず全体から見ると、前期と後期で同じ講義でアンケートを行っているわけではないので、単純に結論は導き出すことはできないが、前期と後期を比べると、留学生・留学生以外に関わらず、ほぼ全体にわたって後期の数値が低く出てくる傾向（表 1・2）にある。

問 1「休まずに出席したか」、問 2「学習目標の理解の有無」、問 3「予習・復習、時間外学習の有無」に関する質問では、前期・後期とも留学生の方が高い数値を出している（図 1・図 2）。

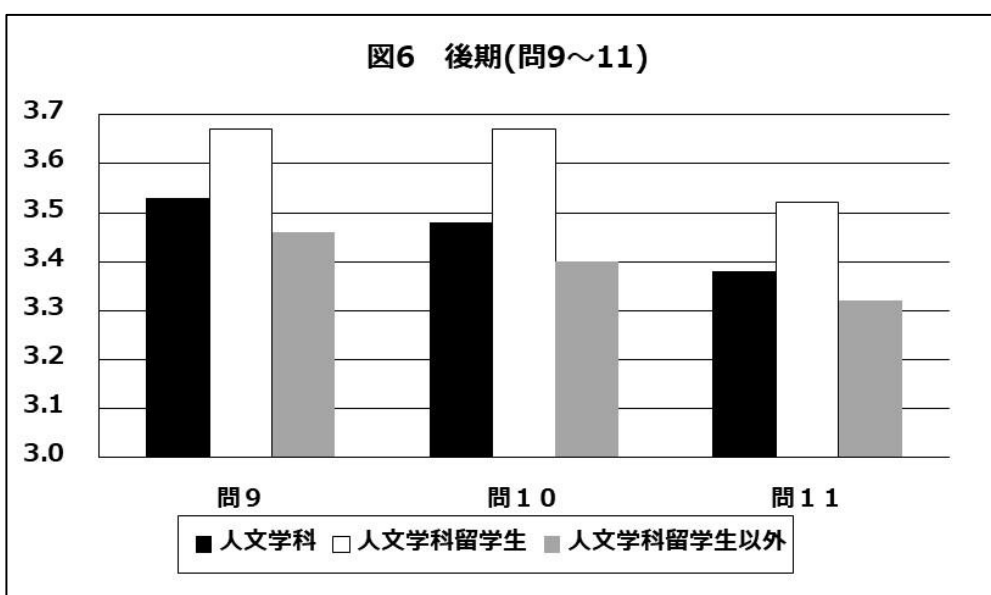
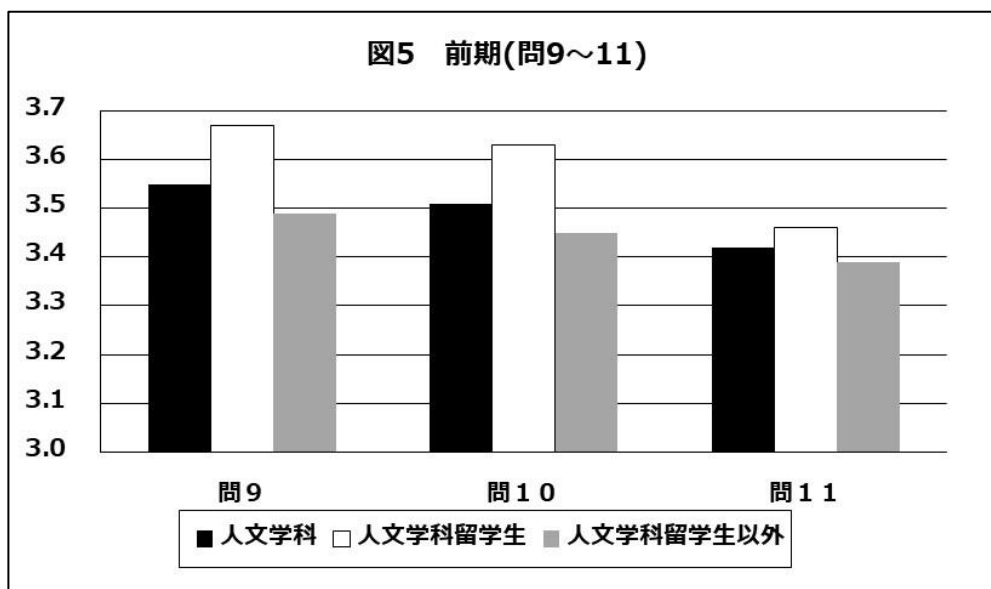


さらに、個別に見ていくと、問1と問2の数値が、留学生・留学生以外ともに後期の方が数値が低くなっているところは工夫と改善が必要である。

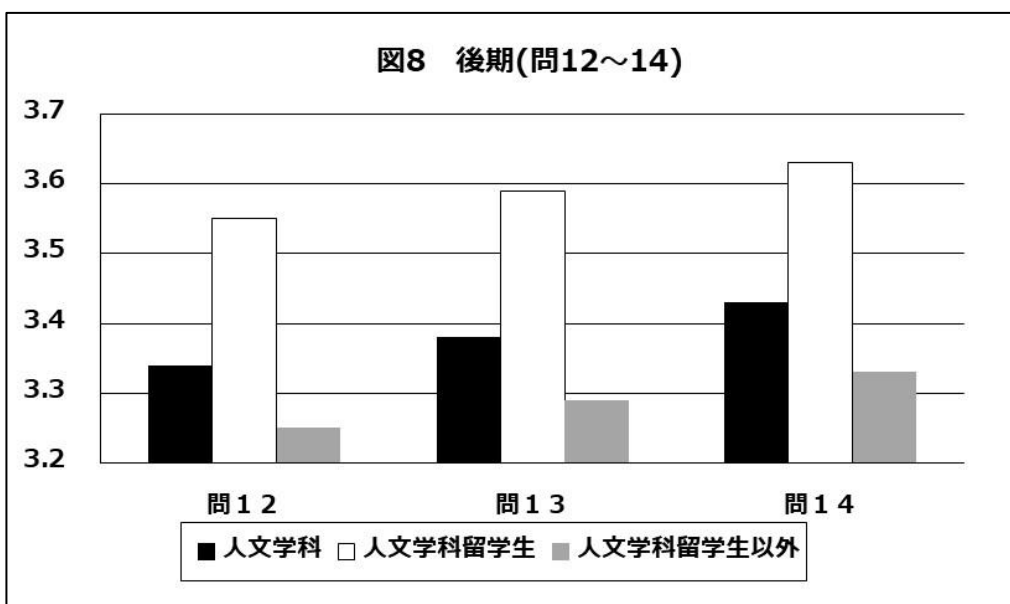
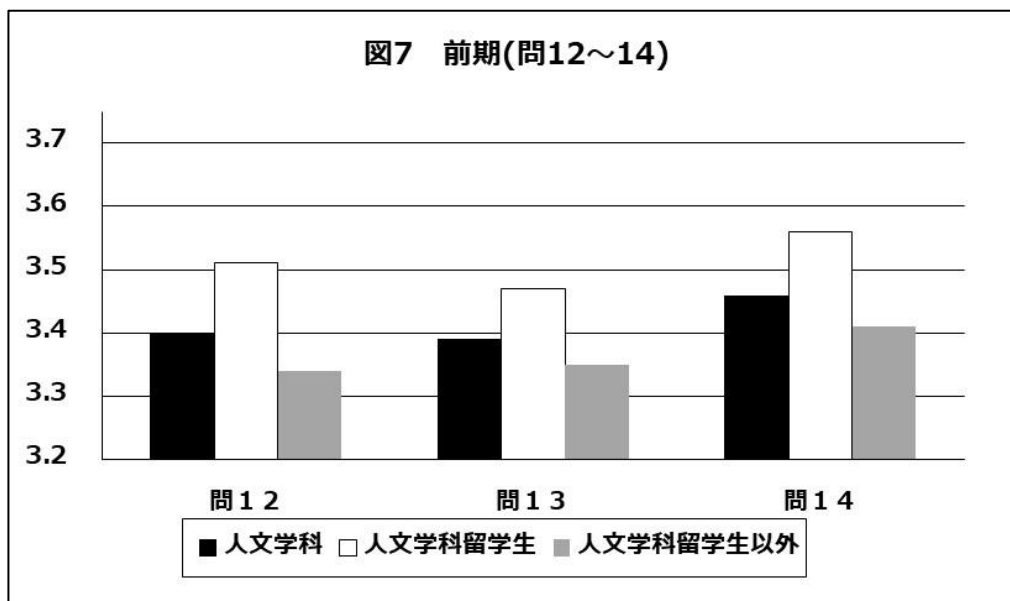
問4から問8までの担当教員の授業に対する姿勢を問うアンケート（図3・図4）では、先ほど同様に留学生・留学生以外ともに後期に数値を下げているのだが、特に留学生以外の数値の下げ幅が大きいことは、今後さらに検討を加えなければならない。



問9から問11までの授業の実施状況や理解を問うアンケートを見てみると、前期よりも後期の数値が高いことは、学生の理解力が後期に入って伸びていることも関係するのかもしれない。特に留学生の数値が大きく上がっているのは、彼らの日本語能力が飛躍的に伸びていることと関係するものであろう。



問 12 から問 14 までの講義内容の理解および受講による学修効果を問うアンケート（図 7・図 8）でも前期よりも後期の方が数値が高くなる。これは先ほどと同様の理由が考えられ、つまり学生の理解力が後期に入って伸びていることも関係するのかもしれない。人文学科の科目構成、学生自身の学びに対する姿勢などから考えて、突然めざましい変化をみせる性質のものではなく、人間形成のなかでじわじわと伝わっていく要素が大きいものであることを踏まえると、考えられる妥当な値となっているように思われるが、教員が学生の状況を察知して、努力を続ける必要があるのは当然である。



2. 自由記述の特徴

教員に対しても好意的な記載が見られることは、学科全体の取り組みが一定の効果をあげている側面と考えられる。一方、授業時間についての指摘や、授業の進行、板書などに関する意見は、各教員が真摯に受けとめ、改善していく必要がある。

(文責 井上 陽)

授業評価アンケート結果の分析（人間発達学部）

1. 評価の特徴

人間発達学部は子ども発達学科、発達栄養学科のいずれも資格取得に重点をおいた授業カリキュラムを編成している。そのため、授業評価アンケートの対象も資格取得に関連したものが多く含まれている。また、実験・実習および演習が多いのも本学部の特徴である。

両学科の資格取得には一定の出席数が文部科学省および厚生労働省によって規定されている。問 1「授業を休まずに出席したか」の質問に対する両学科の回答は前期は全学平均より高い値を示したが、後期は全学平均と大きな差が見られず前期に比べて低下した。問 2「学習目標の理解」は両学科とも前期は全学平均とほぼ同じ値を示したが、後期は発達栄養学科で低下した。2015 年はこれらの項目は、前・後期で大きな差は見られていなかった。本年度、このような結果が生じた理由をアンケート対象科目から検討したところ、後期の授業評価アンケート対象科目は、非常勤講師の先生方の授業が半数以上と多いことが明らかとなった。アドバイザー制や担任制を実施している人間発達学部では専任教員が授業の出席について非常に厳しく指導しているため、その反動として非常勤の先生方の授業を安易な気持ちで欠席しているのではないかと考える。また、問 2 の結果から、自らの最終的な目標である資格についての理解が、半年の学びを経た後期においても乏しい学生が多いことが推察される。問 3「予習・復習、時間外学習」の評価点は 2014 年度から継続的に低く、大学生になっても「勉強は授業時間だけ」という高校までの学習態度が改善されないまま継続していると考えられる。近年、小学校～大学のいずれにおいても時間外学習の減少が問題となっていることから、学生の自主的な時間外学習を期待すること自体が間違っており、web などを活用した予習をしなければ授業に参加できない仕組みを検討すべき時期なのか、とも考える（表 1 および図 1）。

問 4～8 までの項目は担当教員の授業に対する姿勢を問うものであり、本年度も対象授業によりばらつきが認められた。発達栄養学科の後期の結果は、すべての問いに対して前期および全学平均より低い値であった。また、2014 年から継続して、専任教員に比べて非常勤教員で全体的に低い傾向が認められた（図 2、図 2-2）。一方、学生からの質問に対する対応や受講態度への注意に関する問 7・8 の項目は専任に比べてわずかに低い値に留まっており、本学部の非常勤の先生方は専任教員と連携して、適切な授業を実施していることが伺える。来年度以降もさらなる改善のため、非常勤の先生方との学科単位での連携を期待する。

問 6 の教員による学習目標の提示に関しては、子ども発達学科、発達栄養学科のいずれも 2015 年度の調査に続いて本年度も全学に比べて低い値を示した。本

項目と関連する問 2 の学習目標の理解も低いことから、教員が学習目標を示しているにも関わらず学生が十分に理解していないことも考えられる。学習意欲の向上、具体的な学習目標の提示とそれによる確実な理解を得る努力が、今後も継続して必要と考える。

授業の実施状況や理解に関する問 9～11 までの項目は、前期は全学の平均値と大きな差は認められなかったが、後期は発達栄養学科で若干低下した。一年間の授業を平均して考えると、人間発達学部の講義における視覚教材の活用や講義のスピードは、適切であると考えられる(表 1 および図 3)。自由記述欄に「他の先生も先生のような分かりやすいパワーポイントを作ってくれたらいいのに」などの意見が挙げられたことから視覚教材の活用時に先生方が様々な工夫をされていることがうかがえる。この質問項目の評定値が高い教員が講師となって、学生が分かりやすいパワーポイントとはどのようなものか、FD 研修会でも検討できれば良いと思う。授業の理解を問う問 11 は発達栄養学科で前期に比べて後期で低く、この傾向は 2015 年から継続している。この結果から専門性の高い学習内容が多くなる後期では、全ての学年において高度な学習への対応が不十分な学生がいると考えられる。自由記述欄でも同じ講義に対して「教えるのに向いていない、教員を変えてほしい、分かりにくい」「授業のスピードが速い」とある一方で、「わかりやすく、復習しやすかった」など意見のばらつきが見られた。2015 年も報告したように本項目は学ぶ側である学生の自主的な学習も大いに関連することから、問 3 の予習・復習など時間外学習の工夫により、改善できると考えられる。

授業内容の理解および受講による学習効果を問う問 12、13 および 14 の項目は、前期は全学の平均値とほぼ同じ傾向が認められたが、発達栄養学科では後期に低下した(表 1 および図 4)。授業評価アンケート対象科目の多くが資格取得に関連し、後期は演習・実習系授業が多いことから、問 12「受講講座のテーマに関する問題意識や関心の高まり」、問 13「新しい知識・考え方・技能の習得」については、特に発達栄養学科において評価点をさらに高める努力が必要と考えられる。

2. 自由記述の特徴

自由記述欄では「わかりやすかった」「良かった」という意見が最も多かったが、「もっと学びたくなった」など前向きな意見も多かった。本年度も否定的な記述の半面、同じ授業に対して「わかりやすい」「しっかり学ぶことができた」と肯定的な記述も多く、このような傾向はすべての学年で認められたことから、1 年生だけでなく大学での学びを経ている上級生にも依然として学習能力に大きな差があることが推察される。

3. 身についた力の特徴

本年度の人間発達学部における授業評価アンケートでは、前期に比べて後期で「実験・実習・演習」が多いという特徴が挙げられる。例年、身についた力の学生自己評価は「実験・実習・演習」で高くなる傾向がみられているが、本年度は授業の形態に関わらず前期および後期のいずれにおいても、子ども発達学科ではほとんどの項目が全学および発達栄養学科に比べて高かった。発達栄養学科は前期、後期のいずれでも「プレゼンテーション力」「コミュニケーション力」が低く、この結果は2015年以降継続していることから、発達栄養学科の学生の特徴と考えられる。栄養士・管理栄養士はこの力のいずれも必要であることから、初年次からこれらの能力を高める工夫が必要と考える。

4. 授業評価アンケートの傾向と今後の課題

2014年から継続して本学部の授業評価アンケートの取りまとめを担当している。人間発達学部の4年間の対象授業と結果の傾向について、簡単にまとめる。

人間発達学部の評価点は「実験・実習・演習」で高く、「講義」では低く、また専任教員に比べて日常的な接点の少ない非常勤講師では評価点が低い傾向が認められる。さらに、専門性の高い授業では講義の形態に関わらず、評価点が低い。再履修学生が多い専門性の高い授業では、自由記述でも否定的な意見が多かった。授業を担当する教員は、授業評価アンケートの結果から自らの授業を顧みることが多いため、専門性の高い講義を担当して頂いている非常勤講師の先生の評価点が非常に低く、自由記述で否定的な意見が多い場合には、専任教員としてその対応に窮する。

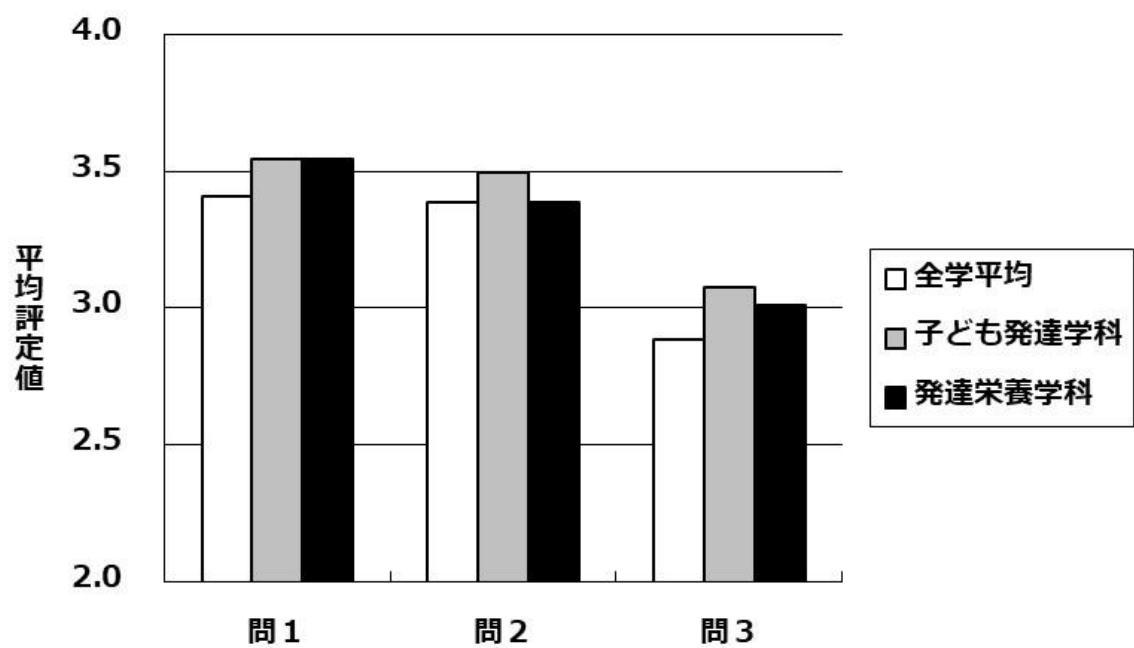
外部のFD研修会などの折に本アンケートについて他大学FD担当者に様子を聞いてみると、本学と同じような「非常勤講師の授業や講義で低い」「実験・実習で高い」傾向を伺うことができる。本アンケートを教員評価に利用する大学も増えていることから、「良い評価点が得られるように対象授業を作為的に選ぶ」

「授業の内容を安易にする」「講義科目でもグループワークを多用し、学生たちに自由な時間を作っている」などの対応がなされていることも聞くと、「何のため授業評価アンケートなのか」と疑問も感じる。

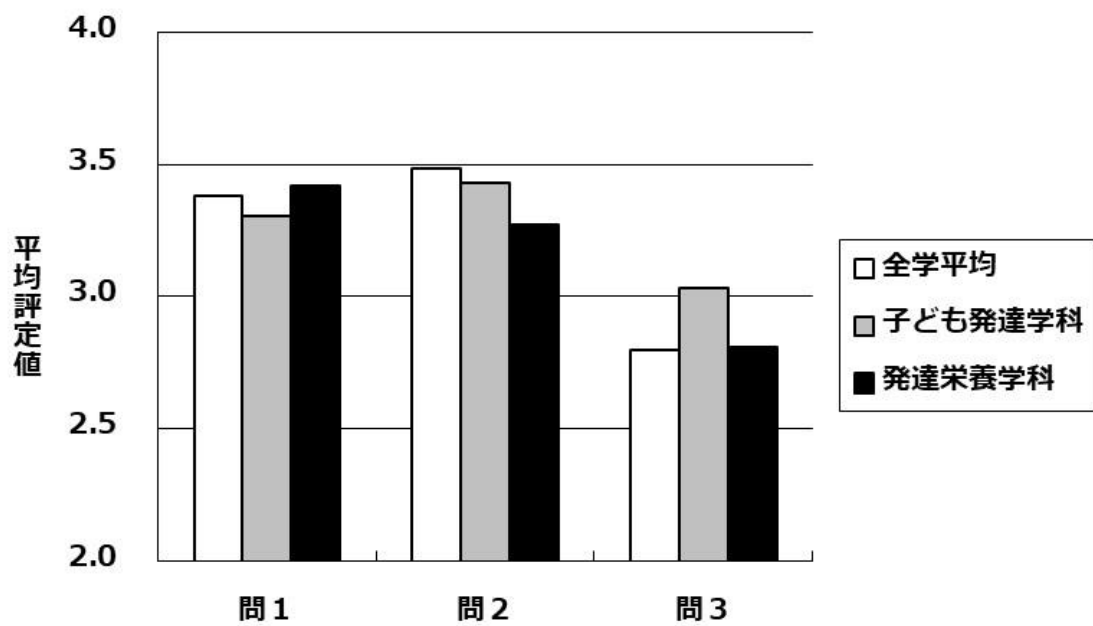
今後は、これらの問題点、疑問点に鑑みて「適切なFDのための授業評価アンケート」を検討したいと思う。

表 1 人間発達学部および全学平均の評定値

	前期				後期		
	子ども発達 学科	発達栄養 学科	全学		子ども発達 学科	発達栄養 学科	全学
問 1	3.55	3.55	3.41		3.31	3.42	3.40
問 2	3.50	3.38	3.39		3.43	3.27	3.39
問 3	3.08	3.01	2.89		3.03	2.81	2.89
問 4	3.45	3.31	3.40		3.46	3.16	3.41
問 5	3.62	3.68	3.67		3.58	3.47	3.67
問 6	3.56	3.52	3.54		3.56	3.33	3.53
問 7	3.56	3.50	3.56		3.57	3.37	3.56
問 8	3.51	3.43	3.46		3.44	3.30	3.47
問 9	3.45	3.47	3.56		3.50	3.40	3.56
問 1 0	3.42	3.31	3.45		3.44	3.28	3.47
問 1 1	3.41	3.27	3.36		3.42	3.16	3.38
問 1 2	3.43	3.29	3.36		3.45	3.15	3.37
問 1 3	3.49	3.32	3.40		3.45	3.20	3.39
問 1 4	3.49	3.37	3.43		3.44	3.25	3.43
平均値	3.46	3.39	3.42		3.43	3.25	3.42

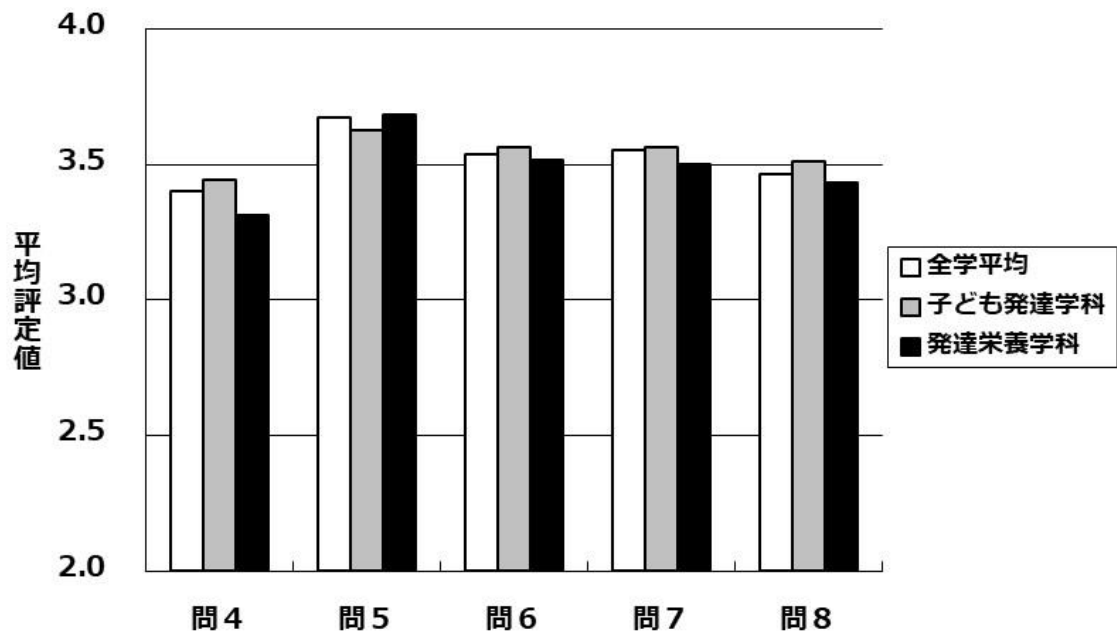


2017年度前期

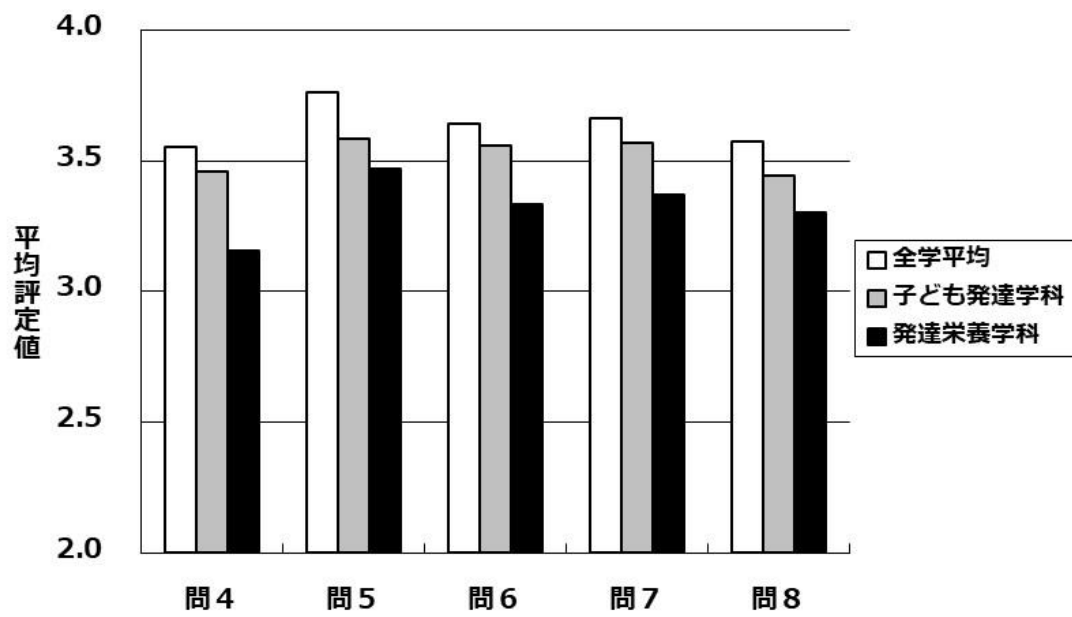


2017年度後期

図1 全学および人間発達学部の間1～3の平均評定値

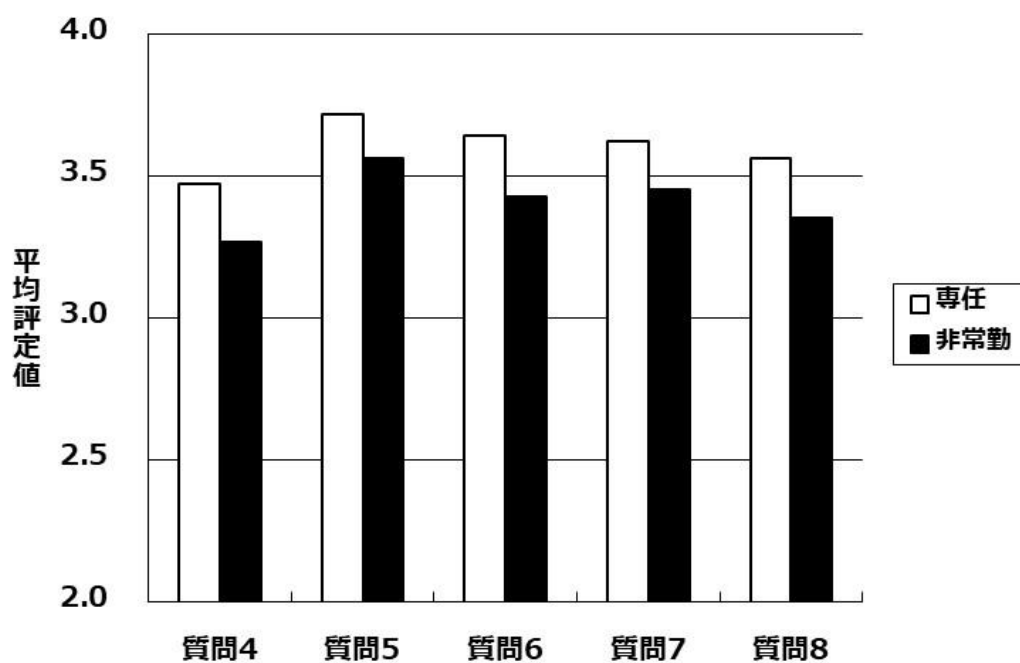


2017年度前期

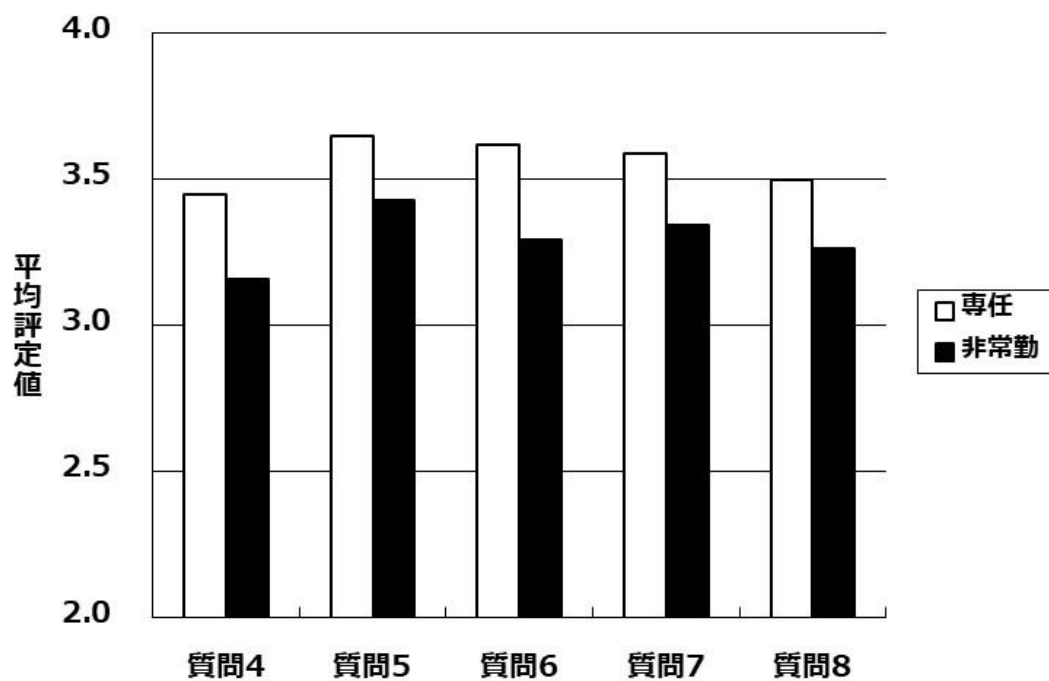


2017年度後期

図2-1 全学および人間発達学部の間4～8の平均評定値

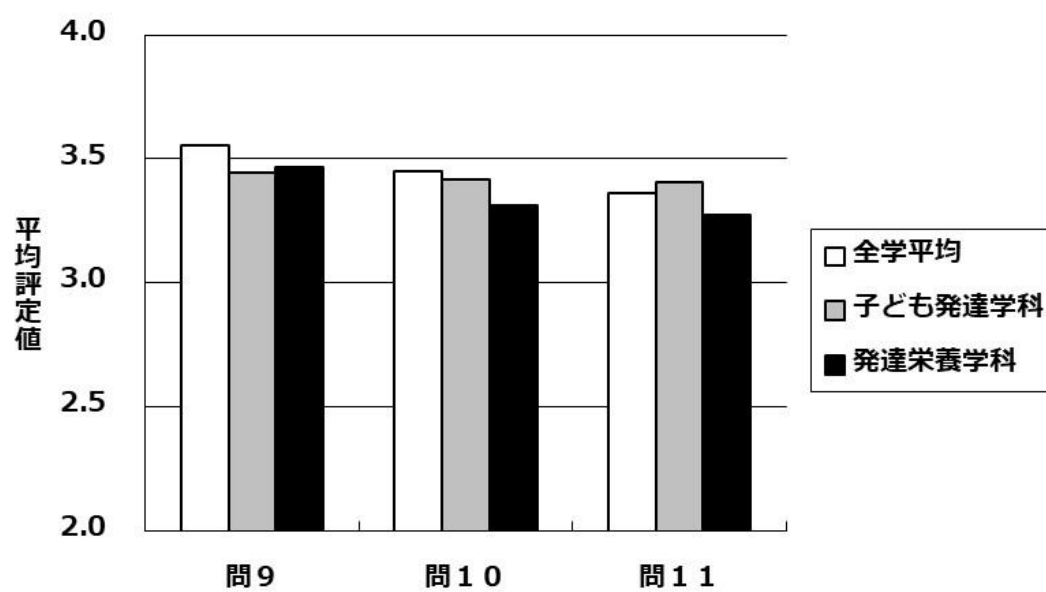


2017年度前期

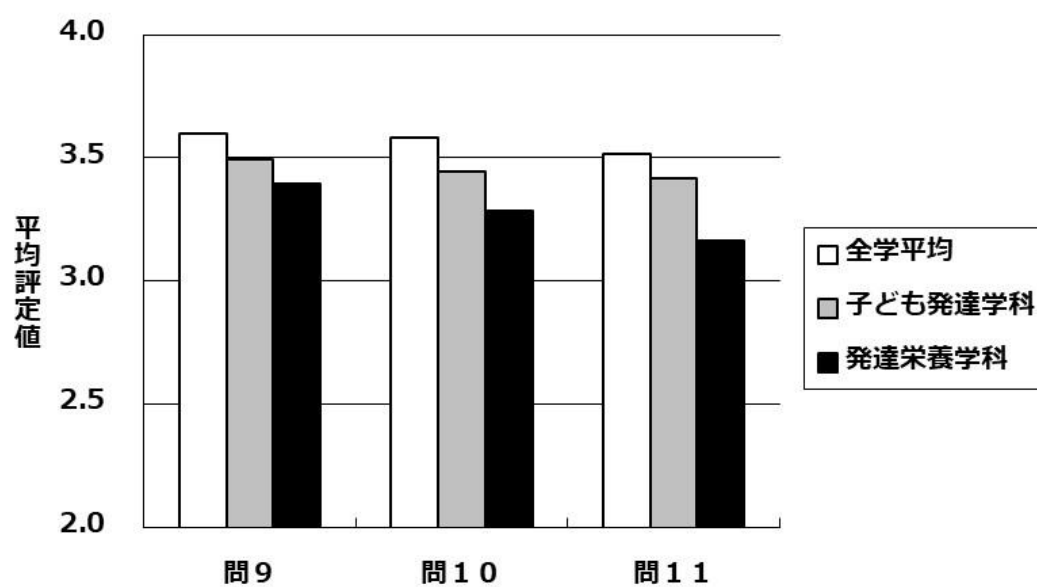


2017年度後期

図2-2 人間発達学部専任教員および非常勤教員での問4～8の平均評定値

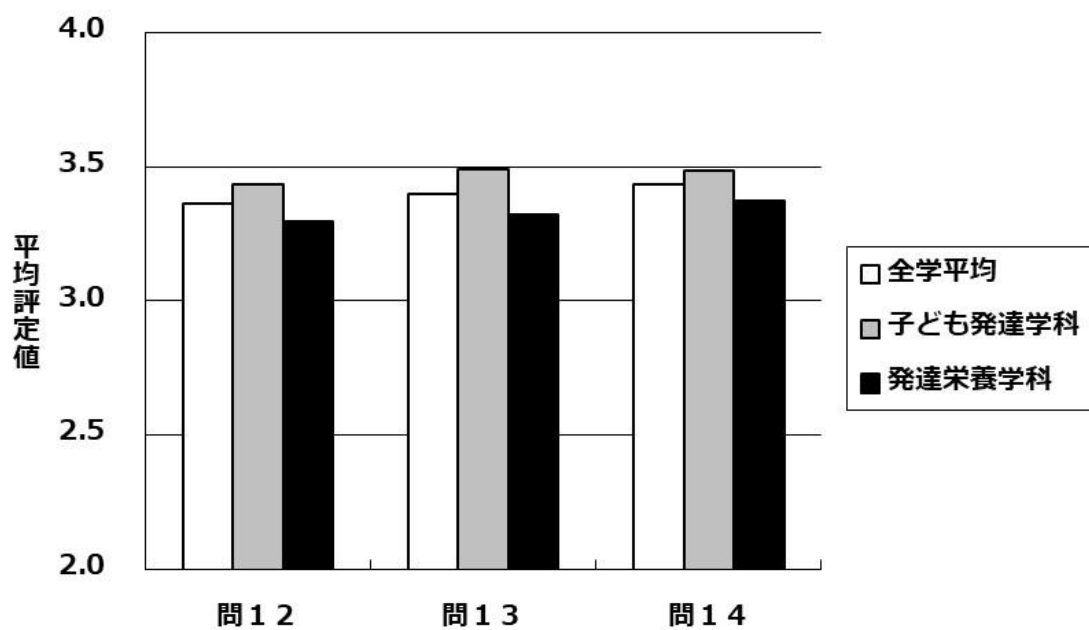


2017年度前期

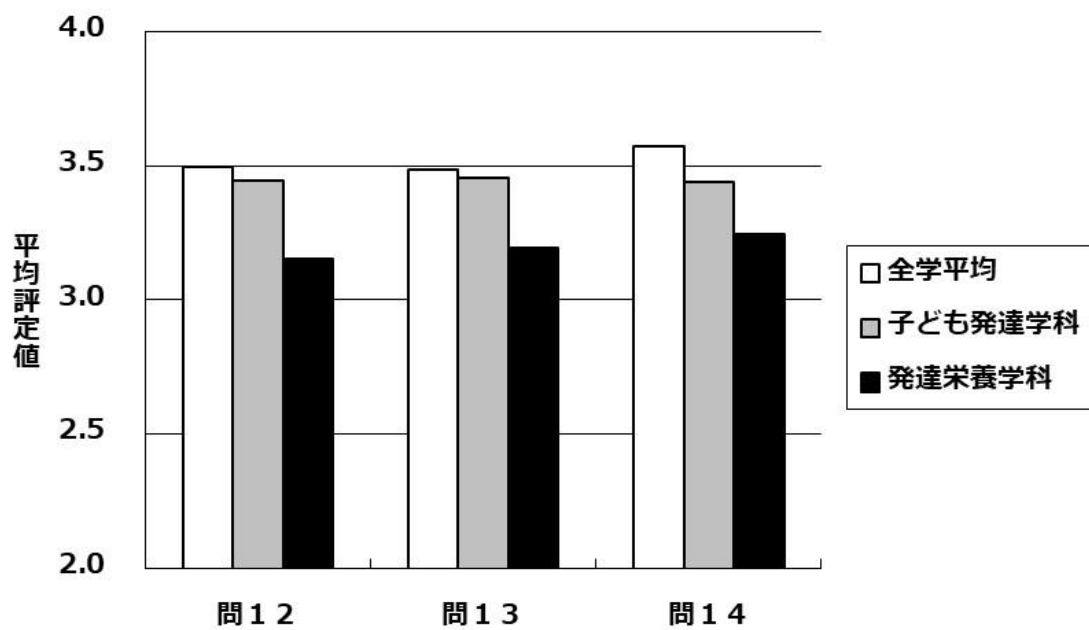


2017年度後期

図3 全学および人間発達学部の間9～11の平均評定値

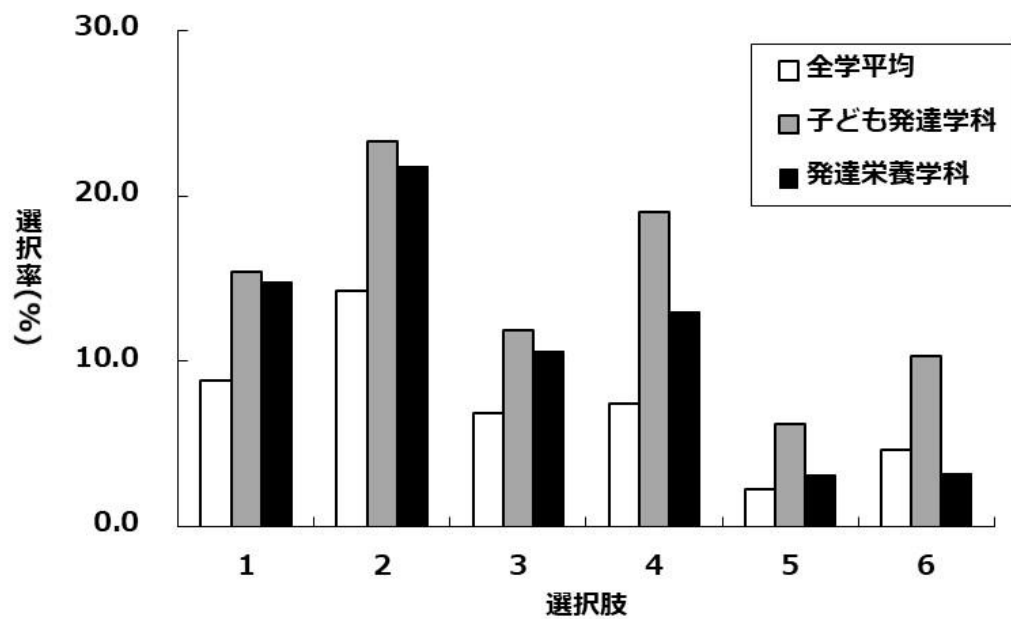


2017年度前期

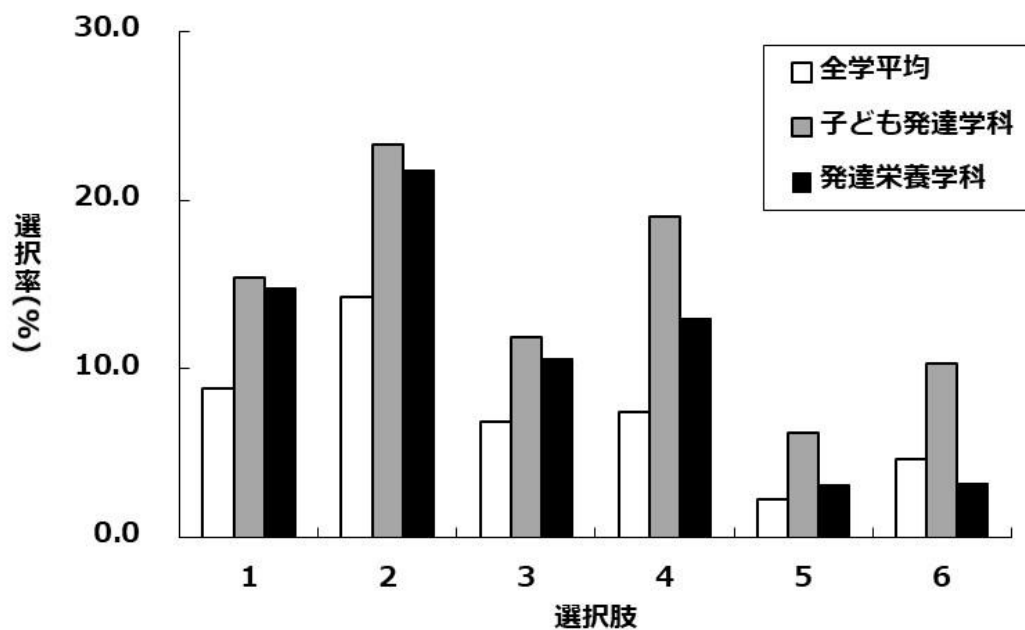


2017年度後期

図 4 全学および人間発達学部の間 1 2、1 3 および 1 4 の平均評定値



2017年度前期



2017年度後期

図5 人間発達学部の間15の選択率

※選択肢1：問題・課題を見つける力、2：考える力、3：調べる力

4：主体的に取り組む力、5：プレゼンテーション力、6：コミュニケーション力

(文責 庄條 愛子)

授業評価アンケート調査結果 前期グループ平均一覧

	基礎・共通科目	基礎・共通留学生	基礎・共通留学生以外	資格科目	音楽学科	音楽マネジメント学科	人文学科	人文学科留学生	人文学科留学生以外	子ども発達学科	発達栄養学科
問 1	3.24	3.35	3.23	3.51	3.43	3.20	3.37	3.47	3.32	3.55	3.55
問 2	3.23	3.47	3.20	3.62	3.38	3.21	3.38	3.45	3.34	3.50	3.38
問 3	2.69	3.18	2.63	3.11	2.73	2.71	2.88	3.03	2.81	3.08	3.01
問 4	3.24	3.56	3.20	3.63	3.46	3.29	3.44	3.53	3.39	3.45	3.31
問 5	3.62	3.77	3.60	3.77	3.71	3.69	3.61	3.73	3.55	3.62	3.68
問 6	3.41	3.67	3.38	3.73	3.66	3.38	3.49	3.58	3.45	3.56	3.52
問 7	3.51	3.66	3.50	3.72	3.60	3.44	3.54	3.66	3.49	3.56	3.50
問 8	3.39	3.62	3.36	3.71	3.54	3.20	3.45	3.61	3.37	3.51	3.43
問 9	3.40	3.65	3.37	3.70	3.68	3.65	3.55	3.67	3.49	3.45	3.47
問 1 0	3.32	3.59	3.29	3.60	3.59	3.41	3.51	3.63	3.45	3.42	3.31
問 1 1	3.19	3.42	3.16	3.54	3.44	3.26	3.42	3.46	3.39	3.41	3.27
問 1 2	3.19	3.44	3.16	3.52	3.43	3.32	3.35	3.46	3.29	3.43	3.29
問 1 3	3.27	3.49	3.24	3.55	3.47	3.37	3.34	3.42	3.30	3.49	3.32
問 1 4	3.27	3.54	3.24	3.61	3.54	3.33	3.41	3.51	3.36	3.49	3.37
平均値	3.29	3.53	3.25	3.59	3.47	3.32	3.41	3.52	3.36	3.46	3.39

授業評価アンケート調査結果 後期グループ平均一覧

	基礎・共通	基礎・共通留学生	基礎・共通留学生以外	資格科目	留学生	音楽学科	音楽マネジメント学科	人文学科	人文学科留学生	人文学科留学生以外	子ども発達学科	発達栄養学科
問1	3.33	3.34	3.32	3.42	3.47	3.52	3.41	3.23	3.34	3.18	3.31	3.42
問2	3.20	3.41	3.18	3.41	3.73	3.83	3.67	3.31	3.48	3.23	3.43	3.27
問3	2.53	3.18	2.46	2.41	3.51	3.38	2.81	2.85	3.05	2.76	3.03	2.81
問4	3.28	3.59	3.25	3.48	3.86	3.97	3.65	3.40	3.52	3.34	3.46	3.16
問5	3.60	3.82	3.58	3.69	3.84	3.97	4.00	3.55	3.68	3.49	3.58	3.47
問6	3.39	3.70	3.36	3.51	3.80	3.95	3.89	3.47	3.67	3.37	3.56	3.33
問7	3.39	3.57	3.37	3.60	3.82	3.92	3.85	3.55	3.71	3.48	3.57	3.37
問8	3.32	3.66	3.28	3.55	3.81	3.83	3.74	3.42	3.57	3.35	3.44	3.30
問9	3.41	3.66	3.38	3.52	3.77	3.71	3.81	3.53	3.67	3.46	3.50	3.40
問10	3.43	3.73	3.40	3.55	3.76	3.80	3.67	3.48	3.67	3.40	3.44	3.28
問11	3.29	3.61	3.26	3.45	3.81	3.87	3.59	3.38	3.52	3.32	3.42	3.16
問12	3.19	3.55	3.16	3.40	3.64	3.95	3.59	3.34	3.55	3.25	3.45	3.15
問13	3.24	3.50	3.21	3.42	3.79	3.90	3.48	3.38	3.59	3.29	3.45	3.20
問14	3.27	3.57	3.24	3.51	3.75	3.95	3.70	3.43	3.63	3.33	3.44	3.25
平均値	3.28	3.56	3.25	3.42	3.74	3.82	3.63	3.38	3.55	3.30	3.43	3.25

授業評価アンケート調査結果 前期グループ平均一覧（レッスン）

	音楽学科	音楽マネジメント学科
問 1	3.44	3.38
問 2	3.13	3.50
問 3	3.76	3.67
問 4	3.62	3.83
問 5	3.00	3.50
問 6	3.54	3.67
問 7	3.53	3.79
平均値	3.43	3.62

授業評価アンケート調査結果 後期グループ平均一覧（レッスン）

	音楽学科	音楽マネジメント学科
問 1	3.35	0.00
問 2	3.15	0.00
問 3	3.60	0.00
問 4	3.72	0.00
問 5	3.30	0.00
問 6	3.57	0.00
問 7	3.52	0.00
平均値	3.46	0.00

